

2012年11月30日

報道関係各位

ソーラーフロンティア株式会社

世界有数の鶴の越冬地で環境調和型のメガソーラーが稼働開始

鹿児島県出水市、ソーラーフロンティア製 CIS 太陽電池約 7 千枚使用、1 メガワット規模

【東京—2012年11月30日】—ソーラーフロンティア株式会社（社長：亀田繁明、本社：東京都港区台場 2-3-2、以下：ソーラーフロンティア）は、CIS 薄膜太陽電池モジュール約 6,700 枚を供給した大規模太陽光発電所（メガソーラー）「下水流（しもずる）発電所」が稼働しましたのでお知らせいたします。今回建設されたメガソーラーの周辺地域は、毎年 10 月半ばごろになると一万羽のナベヅルやマナヅルなどがシベリア地方から渡来する土地としても有名で、環境省の「残したい日本の音風景 100 選」にも選ばれており、メガソーラーの建設地としては非常に珍しい事例となります。本日、渋谷俊彦 出水市長や堀口文治 鹿児島県県会議員、ソーラーフロンティアからは代理店販売部長の上野啓などが出席し、開所式が執り行われました。

下水流発電所は、現時点で鹿児島県最大級となる 1 メガワットの設置容量であり、2 万平方メートルの敷地に約 6,700 枚のソーラーフロンティア製 CIS 薄膜太陽電池モジュールが設置されています。複数の地元の有志が出資する合弁会社「出水ソーラー事業株式会社」（代表取締役：岡田弘一、本社：鹿児島県出水市上鯖淵）が発電事業者となり、今年 7 月から建設を進めてきました。年間想定発電量は約 122 万キロワットで、発電した電力はすべて九州電力に売電されます。

ソーラーフロンティアの取締役常務執行役員である平野敦彦は「日本を象徴する鶴の越冬地に当社のパネルが選ばれたということは大変喜ばしい。当社の CIS 薄膜太陽電池モジュールが周辺環境や景観に調和していると思う。当社の CIS 薄膜太陽電池モジュールを使ったメガソーラーが少しでも地域社会の活性化に貢献できれば嬉しい」と述べています。

ソーラーフロンティアの CIS 薄膜太陽電池は、カドミウムなどを含んでおらず、製造時の原料や電力使用が少ないため、環境に優しい製品です。また 2007 年にはグッドデザイン賞を受賞するなど、景観との調和にも優れています。更に、複数の実証実験で高い実発電量を記録するなど、発電性能にも秀でています。ソーラーフロンティアは、今後とも経済性と環境性に優れた CIS 技術の研究に注力していくとともに、より高性能の太陽電池をお客様に提供してまいります。

以上

◆下水流（しもずる）発電所の概要

名称	下水流発電所
発電事業者	出水ソーラー事業株式会社
所在地	鹿児島県出水市下水流 1935
敷地面積	約 20,000 m ²
総出力	約 1MWp
使用モジュール枚数	約 6,700 枚
年間発電電力量（推定）	約 1,220MWh
運転開始時期	2012 年 11 月 30 日

◆写真

出水市下水流周辺



ソーラーフロンティア製 CIS 薄膜太陽電池を設置した様子



【ソーラーフロンティア株式会社について】

ソーラーフロンティア株式会社は昭和シェル石油株式会社(5002, T)の100%子会社であり、CIS 薄膜太陽電池の生産・販売を行っています。世界最大規模となる宮崎県の第3 工場(国富工場・年産能力900MW)は、2011 年2 月より一部ラインで商業生産を開始した後、同年7 月に全てのラインで商業生産を開始し、フル生産体制に移行しました。ソーラーフロンティア株式会社が生産・販売するCIS 薄膜太陽電池は、銅、インジウム、セレンを使用して、当社の独自技術で生産する次世代太陽電池であり、経済効率が高く、環境に優しいことが特徴です。太陽電池の設置容量(kW)あたりの実発電量(kWh)が従来型のものに比較して高いだけでなく、原料からリサイクル処理まで高い環境意識で設計・生産されています。また、黒一色のデザインが評価され、内閣総理大臣表彰「第2 回ものづくり日本大賞」で優秀賞(製品・技術開発部門)、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2007 年グッドデザイン賞」では特別賞エコロジーデザイン賞を受賞しました。

報道関係からの問い合わせ先:

ソーラーフロンティア株式会社 ブランド & コミュニケーション部 中島・八宮
TEL: 03-5531-5792